

特別委員会報告

■競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は、会期中に2回の委員会を開催し、19年度の岩手競馬の現状を調査するとともに、この1年間の活動を中間報告として総括し、さらには、幹事会のメンバーを会派割りで再構成して、正副委員長との互選を行いました。

中間報告では、特別委員会がこの間、市長及び競馬組合常勤副管理者等から説明を聞く委員会を10回開催したほか、県競馬組合議会の傍聴(9回)、調教師や騎手など競馬関係者との懇談会を開催したこと。総務省や農林水産省、日本中央競馬会、地方競馬全国協会へ岩手競馬に対する財政支援を盛り込んだ要望書を提出するとともに、地元国会議員などへの要請行動を行ったこと。更には大口の債権者である岩手銀行と公営企業金融公庫に対し、債務免除や条件変更など、競馬組合への財政支援を要請してきたこと等、旺盛に活動してきた経過を報告しました。

一方、競馬組合は昨年11月に、収支均衡を条件とする存廃基準を



おつま 奥馬の会が作成した横断幕

盛り込んだ「新しい岩手県競馬組合改革計画」を示し、退路を断って競馬事業存続に向けて最善の努力をするという方針です。しかしながら、19年度のこれまでの経営状況は、「改革計画」の当初計画よりも、売上が6%も下回る非常に厳しいものとなっております。当特別委員会は引き続き調査体制を継続していきます。なお、正副委員長と幹事は次の方々です。

委員長 及川善男、副委員長 佐藤邦夫、幹事 千葉正文、中西秀俊、小野寺重、藤田慶則、菅野

市夫、千田美津子、小野幸宣、高橋瑞男

■水沢病院事業調査特別委員会

5月16日に県保健福祉部、県医療局の担当課長に来ていただき、医療制度改革、県立病院改革について県の取り組みについて懇談いたしました。6月21日には水沢病院事業管理者、事務局長等に出席を求め、経営方針や今後の取り組みについて調査しました。県立胆沢病院の産科医師の退職に伴い、胆沢地区の医師不足が一気に社会問題になった感があります。その中で水沢病院の問題は単に赤字だけの問題ではなく、胆沢地区全体の医療をどう考えるか。市民の健康と命を守る地域医療をどのように構築するのか。水沢病院は地域医療のどの部分を受け持つのか。役割分担を明確にして健全経営を目指すことが重要ではないかという意見が多く出されました。

なお今議会で「深刻な医師不足の打開を求める意見書で医師数について医療現場の実態を踏まえて大幅な増員を図ること。など4項目について全会一致で可決し、岩手県や国に対して提出いたしました。

■北上川治水対策特別委員会

当特別委員会は、議会閉会中の5月30日に北上川治水対策関係団体との懇談会を行い、また今期定例会中の6月18日に委員会を開催し、調査を行いました。旧市町村時の7団体が活動しており14項目の要望内容となっています。14項目のうち6事業が平成20年度に完成の予定になっています。

懇談会には、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所から担当課長の出席を要請し、北上川治水対策の現状と今後の計画について説明を受け、昨年度策定された北上川系河川整備基本方針の概要をはじめ現在進められている一関遊水地事業の進捗状況、北上川治水の整備計画、効果などについて把握したほか、北上川沿線地域の治水対策関係7団体と地区の現状や取り組み状況について懇談いたしました。北上川の治水対策については、引き続き調査のほか、関係団体の要望事項も含めた対策調査を行い関係者間の共通認識を高めることが必要であることから今後も積極的な調査活動が必要です。